

2. 不利ナル結果ヲ招來セシ戰例

0637

〔不利ナル結果ヲ招來セシ戰例〕

目次

- 一、戰鬪ノ爲ノ前進間搜索警戒ヲ
怠リ不利ナル戰鬪ヲ交ヘタル戰例……………(六七)
- 二、敵ノ有效射撃下ニ必要以外永ク停止シ
敵ノ大部ヲ逃走セシメタル戰例……………(八九)
- 三、手榴彈及豫備彈藥ヲ
携行セザリシ爲好機ヲ失シタル戰例……………(九三)

0638

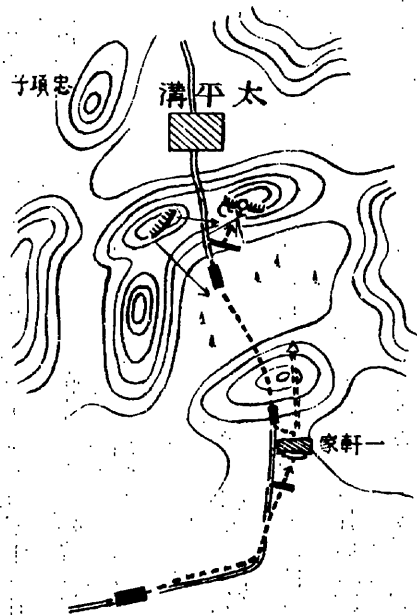
一、戦鬪ノ爲ノ前進間搜索警戒ヲ

怠り不利ナル戦鬪ヲ交ヘタル戦例

昭和十年六月一日、拉濱線上營分遣隊ニハ、某軍曹以下十二名服務シアリ。去ル五月三十一日派遣セシ密偵歸リ來リ、上營西北方六籽太平溝ニ匪首長山以下三〇名食事中ナリトノ情報ヲ受ク。時將ニ午前十時。分遣隊長ハ直ニ此ノ情報ヲ中隊ニ報告シ、部下十名ヲ率ヒ、該匪ヲ討伐スベク直ニ出動ス。二名ハ監視者トシテ分遣隊ニ残シ置ク。

出動セシ討伐隊ハ、密偵ノ誘導ニ從ヒ前進スルコト約四籽ニシテ、前方ノ一軒家ニ數名ノ匪賊ノ居ルコトヲ發見シ此ヲ攻撃、北方太平溝方面ニ敗走セシム。此處ニ於テ分遣隊長ハ、該匪ハ太平溝部落ニ居ル本隊ト合センガ爲、太平溝部落ニ集結セントスルヲ判斷シ、一軒家後方ニ於テ隊勢ヲ整へ、一列側面縱隊トナリ、道路上ニ沿ヒ遁走スル敵ヲ急追シ、(イ)高地ノ中腹ニ至リシ時、急襲的ニ兩側ヨリ射撃ヲ受ケ進退谷マリ、忽チ二・三名ノ戦傷者ヲ出ス。此處ニ於テ隊長ハ突撃ヲ決心シ、(ロ)ノ火點ニ向ツテ突進セシモ、敵ノ火力熾盛ナル爲、悉ク此所ニ於テ斃ル。此ノ時ニ於ケル敵陣地トノ距離約二十米ナリ。幸ニシテ生存者二名血ニ染リナガラ六籽ノ里程ヲ馳セ歸リ、此ノ急ヲ中隊長ニ報告ス。

中隊長ハ直ニ非常呼集ヲ行ヒ、装甲
 列車ニヨリ現場ニ駆ケ付ケタレド、時
 既ニ遅ク、一人ノ匪賊モ見エズ、太平
 溝山麓ニハ悲惨ナル戦死者ノ死體アリ
 シノミナリ。



八八

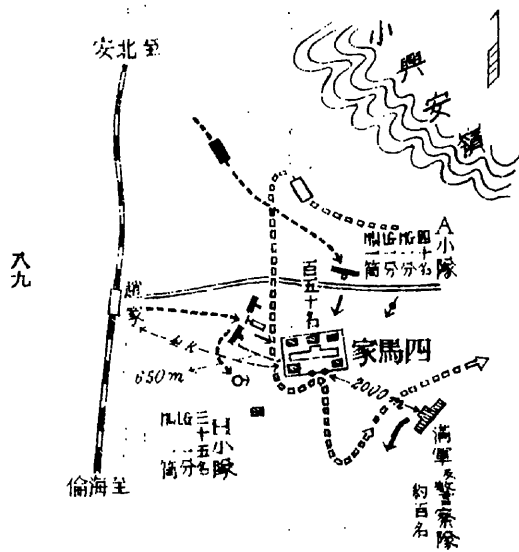
0640

二、敵ノ有效射撃下ニ必要以外永ク
停止シ敵ノ大部ヲ逃走セシメタル戦例

昭和十年四月二十日午前六時、警察隊ヨリ情報ヲ得タル海倫守備隊ハ、直ニ討伐隊ヲ編成、A中尉以下七十五名、裝甲列車ヲ以テ趙家ニ至リ、H曹長以下三十五名趙家ニ於テ下車東進シ、A小隊ハ更ニ裝甲列車ヲ以テ北進、趙家北方約五軒ノ地點ニ於テ下車南進ス。

午前十時H小隊ハ要圖(イ)ニ於テ南進中ノ匪賊百五十名ト遭遇、直ニ交戦シ、午前十一時ニ於ケル態勢要圖ノ如シ。滿軍及警察隊ヨリ成ル討伐隊約百名ハ、是ヨリ先該敵ヲ北方ニ追撃シツツ、十一時要圖ノ位置ニ在リ。

折カラ南進中ノA小隊ヲ發見セシH曹長ハ、之ヲ賊ト誤認、敵ニ包圍セラレタル如ク判断シ、部下小隊ノ攻撃ヲ止ム。此ノ間匪賊ハ遮蔽シツツ一人二人ト約三



八九

0641

分一ハ南ニ巧ニ逃走ス。

而シテ要圖ノ態勢ヨリ約二時間、午後二時ニ至リ、A、II兩小隊ノ連絡漸クニシテ成リ、攻撃開始スルヤ敵匪ハ一齊ニ南方ニ逃走ヲ企ツ。此ノ時II小隊ノ第五分隊K軍曹以下五名ハ、獨斷左翼ニ進出、逃走セントスル敵ニ猛射ヲ浴セ、十五騎ヲ倒ス。

敵ノ大部ハ更ニ南方ニ逃走セントスルヲ、満軍及警察隊ニ阻止セラレ、巧ニ方向ヲ變ヘテ東方ヘ逃走ス。彼我ノ損害

我軍	戦	死	一名
敵	遺棄死體		十八名
	斃馬		三
	小銃		五
彈	藥	五、〇〇〇	

(教訓)

(1) 例ヘ一銃ノ輕機關銃ト雖モ、敵ノ側背ニ迫ル時ハ大ナル效果アリ。

(2) 攻撃ノ時機ヲ失スベカラズ。指揮官タルモノハ克ク状況ヲ判断シ、攻撃ノ實施ニ遲疑スル時ハ斯ノ如キ失敗ヲ招クモノナリ。

(3) 鐵帽ハ必ず使用スベシ。戦死者一人ハ頭部貫通銃創ナルモ、鐵帽ヲ使用シタランニハ其ノ難ヲ免レシナラン。

0643

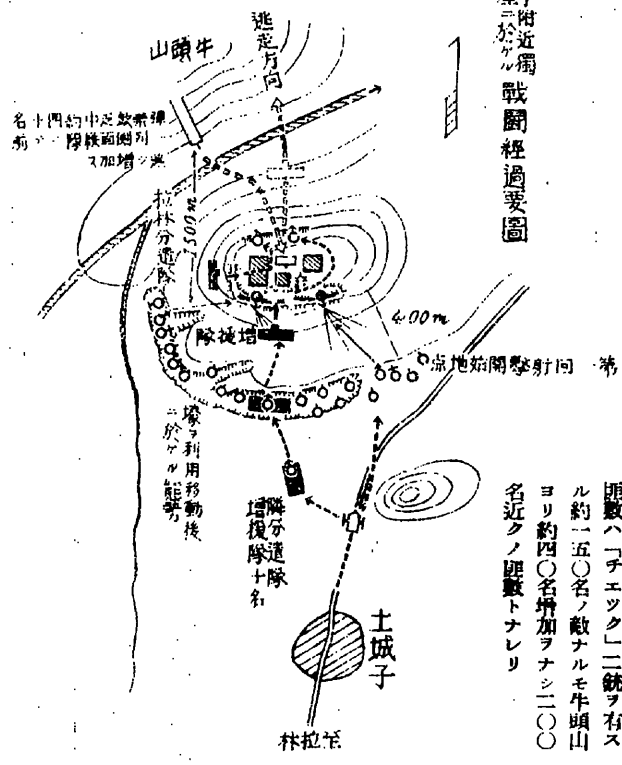
三、手榴彈及豫備彈藥ヲ

携行セザリシ爲好機ヲ失シタル戰例

昭和十年六月、雙城縣土城子北側一、五〇〇米獨立家屋ニ青山好ノ指揮スル約四十名ノ匪賊蟠踞、晝食準備中ナリトノ拉林警察隊ヨリノ情報ヲ午前十一時受領シ、直ニ出動準備ヲ命ジタリ。當時余（某曹長）ハ分遣隊長トシテ服務中、毎日ノ如ク情報アリ。其ノ度毎ニ直ニ出動シタルモ、常ニ匪賊逃走後ナル事多ク、分遣隊長トシテ三月命ゼラレテ以來、出動回数三十回ニシテ、其ノ間交戦回数僅ニ六回ニ過ぎズ。故ニ當日ノ情報モ、白晝ノコト故概ネ逃走後ナラント思ヒ、背負袋ヲ除キ、出來得ル丈ケ輕裝トシテ、自動車ニヨリ土城子ニ向ヒ前進、土城子ニ於テ土民一名ヲシテ該匪ノ蟠踞シアル獨立家屋ニ案内セシメタリ。家屋前一千米ノ地點ニ於テ自動車ヨリ下車、散開隊形ヲ以テ近接シ、概ネ敵前四百米附近迄前進シ、案内ノ土民ヲシテ該家屋ノ狀況竝ニ匪數等ヲ調べシメタルニ明カナラズ。同家屋ヨリ煙ヲ發シ居ルヲ見、人ノ居ル事ハ確カニシテ土民ヲシキモノ數名、時々銃ヲシキモノヲ持チ出入スルヲ見タリ。依ツテ逃走後ナラズヤトモ考ヘタルモ、土民ハ確カニ未ダ蟠踞シ居ルト云フ。故ニ同家屋ヲ攻撃スルニ決シ、擲彈筒ヲシテ榴彈射撃ヲ命ジ、第一彈發射スルヤ、該家屋前、次葉要圖ノ隊形ニ陣地ヲ占領シアル匪賊ヨリ、一齊ニ集中射撃ヲ受ケタリ。依ツテ

直ニ輕機關銃及小銃兵ニ射撃ヲ命ジ、地形不利ナルヲ考へ、左ノ壕内ニ移動ヲ命ジ、該家屋ノ左側ニ廻リタルニ、敵ヨリ約一〇〇米ノ地點ニ近接シタリ。併シナガラ早ヤ此ノ時ニバ、戦闘開始後約二時間ヲ經過シ、彈藥缺乏シ初メタリ乃チ分遣隊長トシテ、輕機ヲ以テ突撃援助ヲナサシメ、壕ヲ利用シテ敵ニ近接、手榴彈ヲ投ゲ其ノ機ヲ利用シテ突撃セント思ヒタレドモ、手榴彈ナク、輕機射手及彈藥手ハ小銃ヲ持タズ、僅カ八名ノ兵力ヲ以テ百數十名ノ敵陣ニ突撃スルトモ、兵力ヲ減ズルノミナル爲、通譯ヲシテ彈藥ノ補充竝ニ中隊隣分遣隊ニ報告通報ヲナサシムベク命ジタリ。

土城子附近獨戰圖經過要圖
立家屋ニ於ケル



匪數ハ「チエツク」二銃ヲ有スル約一五〇名ノ敵ナルモ牛頭山ヨリ約四〇名増加ヲナシ二〇〇名近クノ匪數トナレリ

0645

戦闘開始後約三時間、牛頭山方面ヨリ増援匪ヲ見受ケタルモ、既ニ彈藥缺乏シ、兵力亦小數ナルニ依リ、拉林川ノ渡河點ニ於テ攻撃セバト思ヒナガラ、詮方無ク彈藥ノ補充ヲ待チタリ。

通譯出發約二時間後、土城子土民五、六名ヲ使ヒ、彈藥ヲ運搬シ來レリ。之ニ續イテ隣分遣隊長以下十名増援ニ來レリ。此ニ於テ密接ナル連絡ノ下ニ、擲彈筒及輕機ヲ以テ射撃シ、之ニ突撃ヲナサントセシモ、敵ハ既ニ壕内ノ兵力ヲ増シ、頑強ニ抵抗セリ。依ツテ薄暮ヲ利用シテ突撃スルニ決シ、午後七時擲彈筒二筒ヲ以テ手榴彈ノ集中射撃ト共ニ突入セリ。

(結 言)

手榴彈及豫備彈藥ヲ携行セザリシ爲、不意ニ敵ノ側背ニ出デナガラ、突撃ノ時機ヲ失シ、持久戦トナリ、戦闘開始後七時間ニシテ漸ク占領スルニ至レリ。

(1) 戦闘開始正午、彈藥ノ補充及増援隊到着午後四時頃。

此ノ戦闘ニ於テ我軍負傷者三名ヲ出ス。

彼、死體、壕内及突撃後家屋内外ニアリタルモノ三十數名

0646